

議会は市長の暴走を止められなかったのか？

これら市長の暴走も、議会が機能していれば止められたはずですが、なぜ議会はそれができなかつたのでしょうか？

それは、政策ではなく政治的な判断で議決に臨む議員が多数を占めていたからにほかなりません。選挙のときに市長の推薦を受けてがんじがらめになったり、推薦は受けていなくとも権力に媚びて賛成していたほうが自身の次の選挙に有利という算段が働いたり…また、市長もそれをわかって利用している向きがあり、「味方」が増えると暴走傾向に。

山下市政と議会との関係と計画にない事業提案

►二元代表制における議員の役割って？

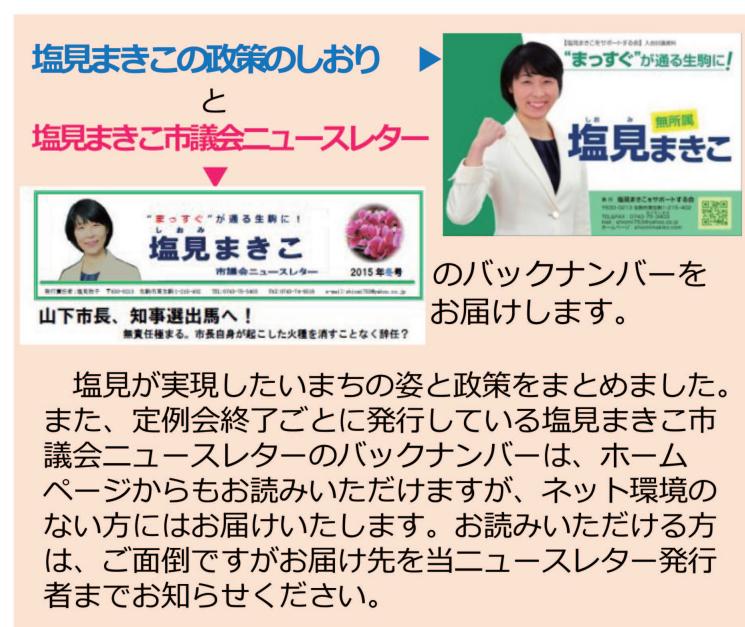
二元代表制における議会は行政の監視機関である以上、議員は市長提案の「賛成要員」ではないですから、市長推薦を受けていようといまいと、きちんと政策、事業ごとに是非を判断しなければいけません。少なくとも黙って賛成するのではなく、反対意見があれば議論を闘わせるべきですが、それができていないのが今の議会です。残念なことですが、なぜ賛成なのか、議会の中にいる私ですらわからぬまま可決されてしまうことがあります。

▶打席に立たなきやヒットも出ない！

「まさか！」と思われるかもしれません、4年間ほとんど発言しない議員も存在します。質問をしても行政との考え方の相違で政策が実現しないこともあります、議員が議会で発言せずして、どうやって政策実現するのでしょうか？

次元の低い話で恐縮ですが、政治的スタンスに関係なく、ちゃんと市政に問題意識をもち、何がしたいのかが明確で、議論ができることが議員の必須条件だと塙見は考えます。

街頭で決まったフレーズのしゃべりはできても、議員間あるいは行政側とは議論できないことも。資質を見抜くのは難しいと思いますが、生駒市議会ホームページは情報の宝庫です。いちど訪れてごらんになってください。



塩見牧子(しおみまきこ) 1965年3月8日大阪生まれ。1972年に生駒に移り住む。生駒東小学校、緑ヶ丘中学校、京都女子高等学校、同大学卒業。同大学大学院文学研究科修了。会社員、学校図書館司書、中・高非常勤講師を経て2007年4月から生駒市議会議員。(現在2期目) 将来世代にツケを残さないサステナブル(持続可能)なまちづくりと、市民の声を政策に転換できる議会の形成を目指しています。